

# 3年2組 算数科学習指導案

日 時：平成29年6月20日  
時 間：9：40～10：25  
場 所：北舎2階 3年2組教室  
授業者：

## 1 単元名 『かけ算の筆算』

### 2 指導の立場

#### (1) 単元について

学習指導要領においては、本単元に関わる内容について以下のように記述してある。

##### A (3) 乗法

(3) 乗法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。

ア 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算の仕方を考え、それらの計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解する。また、その筆算の仕方について理解すること。

本単元では、2位数×1位数ならびに、3位数×1位数といった、被乗数が拡張された乗法の筆算について学習する。

これまでに子どもは、1位数同士の乗法について学習している。また、筆算については、繰り上がりや繰下がりのある加減について学習しており、乗法の筆算形式については十分に理解できると考える。しかし、筆算形式における位ごとの乗法九九の処理が、位の数のまとまりによって成り立っていることは未知である。そのため、位ごとの数のまとまりに着目した、2位数×1位数や3位数×1位数について学習し、乗法九九の処理で成り立つ筆算形式の理解を深めたい。

また、乗法の結合法則についても学習する。この学習は今後の乗法の計算の仕方を考える際にとっても大切な法則であり、形式的に理解するのではなく、式の意味をじっくり考えて理解できるようにしたい。さらに、線分図とテープ図の複合図が初めて導入される単元であるので、段階的な操作活動を位置付けて指導をする。

#### (2) 子どもの実態

単元「3けたや4けたのたし算とひき算」では、問題場面の数量の関係を線分図で整理し、式に表すことができた根拠を説明することができた。また、計算の仕方の学習では、話しながら数玉を動かす、計算の仕方を説明することができた。

単元「かけ算」では、乗法九九表から分かる規則を

基にして、正しい答えを求める方法を説明することができた。また、アレイ図を用いて、乗法の分配法則が成り立つことを説明することができた。

しかし、立式の根拠を説明することを苦手としている子どももいる。そのため、本時では、問題場面が理解しやすいように素材を提示し、子どもと一緒に問題を作るようにしていく。さらに、工夫して計算するよさを感じられるように結合法則を確認した後、「 $7 \times 5 \times 2$ 」を一緒に考え、計算の工夫を全体で確かめてから評価問題に取り組むようにする。

### 3 本時の「3つの見届ける」について

買い物の場面を設定し素材提示を行う。その中で、プリンが1つ90円であること、1箱に3こずつ入り、2箱買うことを理解できているかを、子どものつぶやきは反応から見届ける。

机間指導において、 $90 \times 3 = 270$ 、 $270 \times 2 = 540$ か、 $(3 \times 2 = 6) 90 \times 6 = 540$ のどちらか式が書けているかを見届ける。また、式が書けている子どもには、「まず、何を求めたの。」と問い、式の意味が正しく理解できているかも見届けられるようにする。

評価問題において、正しく計算できているかを記述から見届ける。また、計算の順序を問い、その後「どうして、そのように計算したの。」と問い本時の学習が理解できているか見届ける。

### 4 単位時間における言語活動について

$(90 \times 3) \times 2 = 540$ でも、 $90 \times (3 \times 2) = 540$ でも代金が求められることを確認した後、「この2つの式の同じところと、違うところを見つけましょう。」と投げかけ、式のもつ一般的な意味について理解を深められるようにする。答えや( )の位置や、式の意味について考える意見を交流することで、式についての理解をより深められるようにする。

また、類似問題において、

$$\text{「前の2つを先に計算すると } (7 \times 5) \times 2 = 35 \times 2 = 70$$

$$\text{後ろの2つを先に計算すると } 7 \times (5 \times 2) = 7 \times 10 = 70$$

で、やっぱり、どちらも答えが同じになるよ。」と本時の理解を確かにとともに、「後ろから先にやると筆算をしなくても求められたよ。」と工夫するよさまで実感できるようにする。

## 5 単元指導計画

### (1)単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
2, 3位数×1位数の計算のしかたを進んで考えることができる。	2, 3位数×1位数の計算のしかたを、数の構成や十進法位取り記数法をもとに、既習の乗法を用いて考え、説明することができる。	・ 2, 3位数×1位数の計算を筆算で確実にできる。 ・ 乗法の場面で、言葉の式やテープ図と数直線で表した図を用いて立式することができる。	・ 2, 3位数×1位数の計算原理や方法、筆算の仕方がわかる。 ・ 乗法の結合法則の意味が分かる。 ・ 乗法の場面で、「1つ分の大きさ×いくつ分=全体の大きさ」ということばの式に表されることや、テープ図と数直線に表す方法が分かる。

### (2)単元の流れ

時	ねらい	学習活動	指導 *評価規準 思考力・表現力を高めた姿
第1時	何十×1位数の乗法の計算方法を、位玉を使って説明することができる。	<b>1 場面理解</b> 1まい20円の工作用紙を3まい買います。代金は何円でしょう。 <b>20×3の答えのともめ方をお話ししよう。</b> <b>2 個人追求</b> ① 10のいくつ分で考える ② 20を10の2つ分として考える <b>3 全体交流</b> $20 \times 3 = 10 \times 2 \times 3 = 10 \times 6 = 60$ 20は10の3つ分 その3倍 10の6こ分 <b>4 練習問題</b> <b>5 まとめ</b> 何十×いくつの計算は、10のいくつ分かをはっきりさせる。	・ 指 導 * 評価 規 準 思 考 力 ・ 表 現 力 を 高 め た 姿 ・ 代金が分かる線分図を全体で確認し、「20円の3つ分」を根拠に乗法の式を立式できるようにする。 ・ 数玉を動かして計算の仕方を考えるように促す。 ・ ①②の考えも、「10のいくつ分」をもとに考えた式であることを机間指導でおさえる。 ・ 「20は10の2つ分、その3倍だから10×2×3」を、式と言葉つないで表記できるように指導する。 10のいくつ分をもとに、計算の仕方を説明している姿 「20は10が2つ分なので、20×6は10が6つ分だから、答えは60です。」 * 何十×1位数の計算方法を、10×いくつの計算をもとに説明することができる。
第2時	何百×1位数の乗法の計算方法を、100のいくつ分かかる式で表し計算することができる。	<b>1 問題理解</b> $500 \times 3$ ・ 100のいくつ分で考えれば計算できるよ。 <b>500×3の計算を、100のいくつ分分かる式に表して計算しよう。</b> <b>2 個人追求</b> $500 \times 3 = 100 \times 5 \times 3 = 100 \times 15 = 1500$ 500は100 その3つ分 100の15こ分 <b>3 全体交流</b> ・ 500は100の5つ分ですよね。その3倍だから式は100×5×3になります。100×15ってことは、100の15こ分だから、答えは1500になります。 ・ 前の20×3も、式にすると10×6になったから、何十とか何百×いくつで考えるところが似てます。 <b>4 練習問題</b> <b>5 まとめ</b> 何百×いくつの計算も、100のいくつ分で計算する。	・ この問題は、何のいくつ分で考えれば計算できるかな？と問い「500×3」の式を提示する。 ・ 式と言葉をつなげて表記している子どもの姿を価値付ける。 ・ 前時と共通する「○のいくつ分」に着目できるように、「前の時間と計算の仕方で似ていることはどこかな？」と発問し、単位(10, 100)のいくつ分をもとにすればよいことに気づくことができるようにする。 100のいくつ分をもとに、計算の仕方を説明している姿 「500は100が5つ分なので、500×3は100が15こ分だから、答えは1500です。」 * 何百×1位数の計算方法は、10×いくつの計算のように、100×いくつで計算できることを理解し、途中の式をはっきりさせて計算することができる。
第3時	部分積に繰り上がりのない2位数×1位数の答えは、十の位と一の位に分けてその和を求めて計算することを説明することができる。	<b>1 問題理解</b> $32 \times 2$ の答えを求め方を考えよう。 <b>2 個人追求</b> <b>3 全体交流</b> ・ 32は、10が3つと、1が2つですよね。それが3つ分なので、10は9つで、1は6つになるので、答えは、96になります。 <b>4 練習問題</b> <b>5 まとめ</b> $32 \times 3$ のような計算は、何十のいくつ分、いくつの位のいくつに分けて計算したすと答えがもとめられる。	・ 「これまでとちがって、1の位にも数があるけれど、答えの見付け方を説明できそう？」と問い、課題化へつなげる。 ・ 数玉を用いて、説明できるように準備をする。 位ごとに分けて、それぞれをかけて合わせれば答えが求められることを説明している姿 「32は、10が3つと、1が2つですよね。32×3は、10が9つと、1が6つだから、答えは、96になります。」 ※繰り上がりのない、2位数×1位数の式を、位ごとに分けて計算する方法を説明することができる。

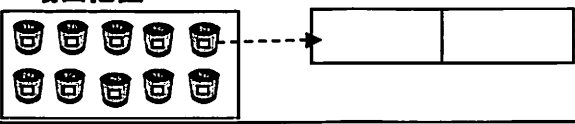
第4時	<p>2位数×1位数の基本的な計算方法を理解することができる。</p>	<p><b>1 問題理解</b>  <b>32×3のような式の答えを、筆算で計算しよう。</b>  <b>2 全体で筆算の計算方法を確認する。</b>          ①位をたてにそろえてかく。 ②「=」を下線で表す。  <math display="block">\begin{array}{r} 32 \\ \times 3 \\ \hline \end{array}</math>  <math display="block">\begin{array}{r} 32 \\ \times 3 \\ \hline 96 \end{array}</math>          ③1位数×位の数で計算。  <math display="block">\begin{array}{r} 32 \\ \uparrow \\ \times 3 \\ \hline 6 \end{array}</math> <math display="block">\begin{array}{r} 32 \\ \swarrow \\ \times 3 \\ \hline 96 \end{array}</math>  <b>3 練習問題</b>  <b>4 まとめ</b>  <b>かけ算の筆算は、①位をたてにそろえてかく。②下に線を引く。③一の位、十の位のじゅんで計算する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の32×3の計算方法を確認する。</li> <li>それぞれの段階で、全員の子どもがかけていることを見届ける。</li> <li>「3×3の9は、何の9つ分ですか？」と数の意味を問い、前時の式とつなげて理解できるようにする。</li> </ul> <p><b>筆算の仕方を数玉の操作とつないで説明している姿</b>          「3×2の6は、1が6つということです。3×3の9は10が9つあるということです。だから、答えは96です。」</p> <p>*2位数×1位数の筆算（繰り上がりなし）の計算方法を理解することができる。  <b>【知識・理解】</b></p>
第5時	<p>十の位に繰り上がるのがある、2位数×1位数の筆算の計算ができる。</p>	<p><b>1 問題理解</b> <math>29 \times 3</math>          ・3×9は27だから、10の位に繰り上がるころががあります。  <b>繰り上がったことが分かるように、29×3を筆算で計算しよう。</b>  <b>2 個人追求</b>          十の位に繰り上がった「2」を位置付けた筆算  <math display="block">\begin{array}{r} 29 \\ \times 3 \\ \hline 87 \end{array}</math> <math display="block">\begin{array}{r} 29 \\ \times 3 \\ \hline 87 \end{array}</math> <math display="block">\begin{array}{r} 29 \\ \times 3 \\ \hline 87 \end{array}</math> <math display="block">\begin{array}{r} 29 \\ \times 3 \\ \hline 87 \end{array}</math>  <b>3 全体交流</b>  <b>4 練習問題</b>  <b>5 まとめ</b>  <b>繰り上がった数は、十の位にかいてたてに計算する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前の問題とちがうところはどこかな？と問い29×3を提示し、一の位の計算が10よりも大きくなることを確かめる。</li> <li>繰り上がった「2」を筆算に位置付けていない子どもに、「十の位が8になるのはどうして？」と問い、繰り上がった「2」を認識しているか確認する。</li> </ul> <p><b>筆算の仕方を説明している姿</b>          「三九27の7と、繰り上がりの2を書きまます。次に三二六の6と2をたして、8を書きまます。答えは、87です。」</p> <p>*繰り上がった数をはっきりさせて、2位数×1位数（繰り上がりあり）の筆算の計算ができる。  <b>【技能】</b></p>
第6時	<p>百の位に繰り上がる、2位数×1位数の筆算の計算ができる。</p>	<p><b>1 問題理解</b> <math>72 \times 3</math>          ・70×3は210だから、百の位に2をかけばいいよ。  <b>繰り上がり分かるように、72×6を筆算で計算しよう。</b>  <b>1 個人追求</b>          百の位に繰り上がった「1」を位置付けた筆算  <math display="block">\begin{array}{r} 72 \\ \times 6 \\ \hline 432 \end{array}</math>         6×2の12の1は、十の位に繰り上がるので、7の線の下に書きます。  <b>2 全体交流</b>  <b>3 練習問題</b>  <b>4 まとめ</b>  <b>答えが百の位になる筆算も、1の位から順に計算する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>72×3と、2×3、70×3を提示し、答えを求める。</li> <li>筆算での計算方法を確認する。</li> <li>「くりあがりがある問題でも計算できそう？」と問い、課題化へつなげる。</li> </ul> <p><b>筆算の仕方を説明している姿</b>          「六二12の2と、繰り上がりの1を書きまます。次に七六42の2と1をたして、3を書き、百の位に4を書きまます。答えは432です。」</p> <p>*繰り上がった数をはっきりさせて、2位数×1位数（繰り上がりあり・答えが3位数）の筆算の計算ができる。  <b>【技能】</b></p>
第7時	<p>3位数×1位数の基本的な計算方法を理解することができる。</p>	<p><b>1 場面理解</b>          みづきさんは312mのジョギングコースを1日1回走ることになりました。3日間では何m走ることになるでしょう。          ・312の3つ分だから、式は312×3です。          ・筆算で計算できるとおもいます。  <b>312×3を位ごとに筆算で計算する方法を説明しよう。</b>  <b>1 個人追求</b>  <math display="block">\begin{array}{r} 312 \\ \times 3 \\ \hline 936 \end{array}</math>         はじめに一の位は3×2で6になります。次に、十の位は3×1で3になります。最後に百の位は3×3で9になるので、答えは939です。  <b>2 全体交流</b>  <b>3 練習問題</b>  <b>4 まとめ</b>  <b>答えが百の位になる筆算も、1の位から順に計算する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>線分図から式を明らかにする姿を価値付ける。</li> <li>筆算できるという子どもの発言を受けて、「筆算で計算するってことは、位ごとに計算するの？」と問い、課題化へつなげる。</li> <li>位ごとに計算していることを、「〇の位は…」と説明する子どもの姿を価値付ける。</li> </ul> <p><b>計算の仕方を数玉の操作とつないで説明している姿</b>          「312は、100が3つと10が1つと、1が2つです。312×3は、100が9つと10が2つと、1が6つなので、答えは912です。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「3×3の9は、何の9つ分ですか？」と問い、数の意味理解を深めることができるようにする。</li> </ul> <p>*3位数×1位数の計算方法を理解することができる。  <b>【知識・理解】</b></p>

<p>第8時</p>	<p>繰り上がりのある三位数×一位数の筆算の計算ができる。</p>	<p><b>1 問題理解</b>  <b>繰り上がり分かるように、<math>389 \times 6</math>を筆算で計算しよう。</b></p> <p><b>2 個人追求</b>  <math display="block">\begin{array}{r} 389 \\ \times 6 \\ \hline 235354 \end{array}</math>         一の位の<math>6 \times 9 = 54</math>なので、5を十の位に繰り上げます。十の位は<math>6 \times 8 = 48</math>なので、繰り上がった5をたして53になります。</p> <p><b>3 全体交流</b></p> <p><b>4 練習問題</b>  <math display="block">\begin{array}{r} 309 \\ \times 5 \\ \hline 1545 \end{array}</math>         一の位の<math>5 \times 9 = 45</math>なので、4を十の位に繰り上げます。十の位は<math>5 \times 0 = 0</math>なので、繰り上がった4をたして4になります。</p> <p><math display="block">\begin{array}{r} 380 \\ \times 5 \\ \hline 19400 \end{array}</math>         一の位は<math>5 \times 0 = 0</math>です。十の位は<math>5 \times 8 = 40</math>なので、十の位は0で百の位に4を繰り上げます。</p> <p><b>5 まとめ</b>  <b>答えが百の位になる筆算も、1の位から順に計算する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り上がりのある3位数×1位数の式を提示する。</li> <li>十の位へ繰り上がった「5」と、十の位の積である「48」のたし算、また、百の位に繰り上がった「5」と百の位の積である「18」のたし算を板書に位置付け、計算の根拠を明らかにする。</li> <li>練習問題で、被乗数の十の位が空位の式、被乗数の一の位が空位の式を取り上げ、3位数に空位の値が含まれていても、同様に位をはっきりとさせて計算すればよいことを確かめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>筆算の仕方を説明している姿          「九六54の4と、繰り上がりの5を書きます。次に六八48の8と5をたして、3を書き、繰り上がりの5を書きます。次に六三18の5と8をたして3と繰り上がりの2を書きます。答えは、2334です。」</p> </div> <p>*繰り上がった数をはっきりさせて、3位数×1位数の筆算の計算ができる。 【技能】</p>
<h1 style="font-size: 4em;">本 時</h1>			
<p>第9時</p>	<p>乗法の式が、「1つ分の大きさ×いくつ分=全体の大きさ」ということばの式に表わされることを理解することができる。</p>	<p><b>1 場面理解</b>  <b>①</b> 1こ62円のけしごむを4こ買うと、代金は248円です。  <b>②</b> 1本に15dLずつ入っているじゅーすは、3本で45dLです。  <b>①にも②にもあうことばの式を作りましょう。</b></p> <p><b>2 個人追求</b></p> <p><b>3 全体交流</b>          ・①は1このねだん × 買う数 = 代金          ・②は1本分のかさ × 本数 = 全体の量          ・どんなときでも使える言葉の式は          ・1つ分の大きさ × いくつ分 = 全体の大きさ</p> <p><b>4 まとめ</b>  <b>かけ算になるお話は、1つ分の大きさ × いくつ分 = 全体の大きさ で 式にできる。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の中に、式と答えがすでに書かれていることを確認し、本時は、どの式にも共通する言葉の式を考える時間であることを確認する。</li> <li>机間指導の際、「62は何の値段?」「4は買った数?」と、62と4の表す意味を問い、ノートに表記するように促す。</li> <li>全体交流で、62、4の表す意味を共通理解し、言葉の式でまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かけ算のときは、どんな時でも「1つ分の大きさ × いくつ分 = 全体の大きさ」という式で書くことができます。</p> </div> <p>*乗法の式が、「1つ分の大きさ×いくつ分=全体の大きさ」で表されることを理解することができる。 【知識・理解】</p>
<p>第10時</p>	<p>1つ分の大きさといくつ分をテープ図と線分図で表し、図を活用して問題を解決することができる。</p>	<p><b>1 場面理解</b>  <b>バスが3台あります。1台に45人乗れます。全部で何人乗れるでしょう。</b>          ・式は<math>45 \times 3</math>です。          ・45が1つ分の大きさで、3がいくつ分です。  <b>1つ分の大きさ、いくつ分分かる図を作って式に表そう</b></p> <p><b>2 全体で表し方を確認しながら図化する</b></p> <p><b>3 練習問題</b></p> <p><b>4 まとめ</b>  <b>いくつ分は線分図、1つ分の大きさはテープ図で表すと式に表しやすい。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>式から、「1つ分の大きさ」「いくつ分」を確認する。</li> <li>線分図で「いくつ分」を表し、テープ図で、「1つ分、全体の大きさ」を表すことを確認する。</li> <li>穴埋め式の問題から、自分で図化する問題へと、段階的に問題に取り組み理解を深める。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>線分図と数直線の図をもとに立式の根拠を説明している姿          「1つ分の大きさは45です。いくつ分の大きさは3です。だから、式は<math>45 \times 3</math>になります。」</p> </div> <p>*問題の数量をテープ図と線分図で表し、立式することができる。 【技能】</p>
<p>第11時</p>	<p>基本的な学習内容に習熟し、それを活用して問題を解決することができる。</p>	<p>学習したことを使って、かけ算の問題に挑戦しよう。          p 49          補充問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導で○を付け、子どもの学習意欲を高められるようにする。</li> <li>できた子どもには補充プリントを用意し、進んで学習に取り組む姿を価値付ける。</li> <li>*これまでの学習を活用し、問題を解決することができる。 【技能】</li> </ul>

## 6 本時のねらい

箱に入ったプリンの代金を求める活動を通して、3つの数の乗法の計算ははじめの2つの数を先にかけても、あとの2つの数を先にかけても答えが同じことに気づき、3つの数の乗法を工夫して計算することができる。

## 7 本時の展開

過程	ねらい	学習活動	教師の指導
問題提示 (課題化)	<p>素材から、プリンの値段、1箱の数、箱の個数と3つの数が出てくる問題であることを理解することができる。</p>	<p><b>1 場面把握</b></p>  <p>1こ90円のプリンを、1箱に3こずつ入れて、2箱買いました。代金は何円になるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1箱の代金は270円だから、それを使えばできそうだ。</li> <li>プリンを個数を求めればできそうだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たくさんあるプリンから2箱に3つずつ入れる場面を見せ、場面を理解できるようにする。</li> <li>「プリンはいくら。1箱に何個、何箱買った。」と問い、子どもと一緒に問題を作る。</li> </ul> <p>(実態を見届ける) 問題場面を正しく理解できているかを子どものつぶやきから見届ける。</p>
		<p>2箱のプリンの代金のもとめかたを考えよう。</p>	
課題成立	<p>プリンの代金を求めることができる。</p>	<p><b>2 個人追求</b></p> <p>① 1箱の値段は、<math>90 \times 3 = 270</math>なので270円です。 <math>270 \times 2 = 540</math>だから、答えは540円です。</p> <p>② プリンは、<math>3 \times 2 = 6</math>で6個なので、90円のプリン6個で、<math>90 \times 6 = 540</math>だから、答えは540円です。</p>	<p>&lt;机間指導の中で&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式を立てることができない子どもに対して、「1箱の値段はいくらになるかな。」と声をかけ、270まで一緒に求め、「その箱をいくつ買ったの。」と問い、自分で式を立てることができるように促す。</li> <li><math>90 \times 6 = 540</math>で求めている子どもに、「6は何の数ですか。」と問い、プリンの数のいくつ分で求めたことを価値付け、全体に広める。</li> </ul>
課題追求	<p>プリンの買い方を基に、結合法則が成り立つことを理解することができる。</p>	<p><b>3 全体交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①は、はじめに1箱の代金を求めています。</li> <li>270は1箱分の代金で<math>90 \times 3</math>も同じです。</li> <li>だから、<math>(90 \times 3) \times 2</math>と書けるんだ。</li> <li>6プリンの個数で、<math>3 \times 2</math>も同じだよ。だから、<math>90 \times (3 \times 2)</math>になります。</li> </ul> <p>2つの式 <math>(90 \times 3) \times 2</math> と <math>90 \times (3 \times 2)</math> の同じところと、違うところを見つけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どちらも答えが540です。</li> <li>どちらも( )があるけど、場所が違います。</li> <li>2つの式はどちらも2箱の代金なので <math>(90 \times 3) \times 2 = 90 \times (3 \times 2)</math> になるんだ。</li> </ul> <p>3つの数のかけ算では、はじめの2つの数を先にかけても、あとの2つの数を先にかけても、答えは同じになります。</p>	
課題解決	<p>結合法則が成り立つことを確かめ、結合法則を使うよさが分かる。</p>	<p><b>4 類似問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前の2つを先に計算すると <math>(7 \times 5) \times 2 = 35 \times 2 = 70</math></li> <li>後ろの2つを先に計算すると <math>7 \times (5 \times 2) = 7 \times 10 = 70</math></li> </ul> <p>どちらも答えが同じになったよ。後ろを先に計算すると、ひっ算をしなくていいから、計算しやすいよ。</p>	<p>本時における言語活動の充実</p> <p><math>(90 \times 3) \times 2 = 540</math>でも、<math>90 \times (3 \times 2) = 540</math>でも求められるようになった後、2つの式の共通点や相違点について考える。数や( )、また、具体的な場面を基に、式の意味を考えを交流することで、式についての理解がより深まるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2つの式 <math>(90 \times 3) \times 2</math> と <math>(90) \times 2 \times 3</math> がどちらも、代金を表していることから、=で結べることを確認する。</li> <li>類似問題を位置付け、本時の理解を確かめると共に、10ができるように計算すると、筆算をしなくてもよいよさがあることを確認し、そのようなことを工夫すると言っておさえる。</li> </ul>
一般化	<p>計算の仕方を考えて、3つの数のかけ算の計算をすることができる。</p>	<p><b>5 評価問題</b></p> <p>先に計算するところに( )をつけて、答えを求めましょう。</p> <p>(1) <math>9 \times 5 \times 2</math>      (2) <math>2 \times 5 \times 5</math></p>	<p>(定着状況を見届ける) 評価問題において、正しく計算できているかを見届ける。その後、「どうして、先に( )を計算したの。」と問い、10になるところから計算すると計算しやすいことを理解できているかを見届ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価問題後、練習問題に取り組む。</li> </ul>